

エコアクション21

環境経営レポート

2022.6.1～2023.5.31



2023年6月1日作成

株式会社 鹿 熊 組

目 次

1. 環境経営方針
2. 事業内容
 - 1) 事業所名及び代表者名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者及び担当者
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境経営目標(中長期)
5. 環境経営活動の取組結果と評価
 - 1) 環境経営への取り組み
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

環境経営方針

【環境経営に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で
様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、
環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした
持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

【環境経営方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに
取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 事務用品のグリーン購入への取り組みを行います。
- ⑤ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑥ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。
定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

制定日 2011年4月20日
改定日 2022年6月20日

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 聡

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 聡

2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号

機材センター 長野県長野市真島町川合北宮島2036番地

3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者 管理部 鹿熊 弘

環境管理担当者 管理部 鹿熊 弘
土木部 田中栄一
建築部 内川隆明

環境管理事務局 管理部 黒岩拓未

連絡先 TEL 026-235-3311
FAX 026-235-3315
HP <http://www/kakumagumi.com>
E-mail info@kakumagumi.com

4) 事業内容

総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、
内装仕上、水道施設工事業

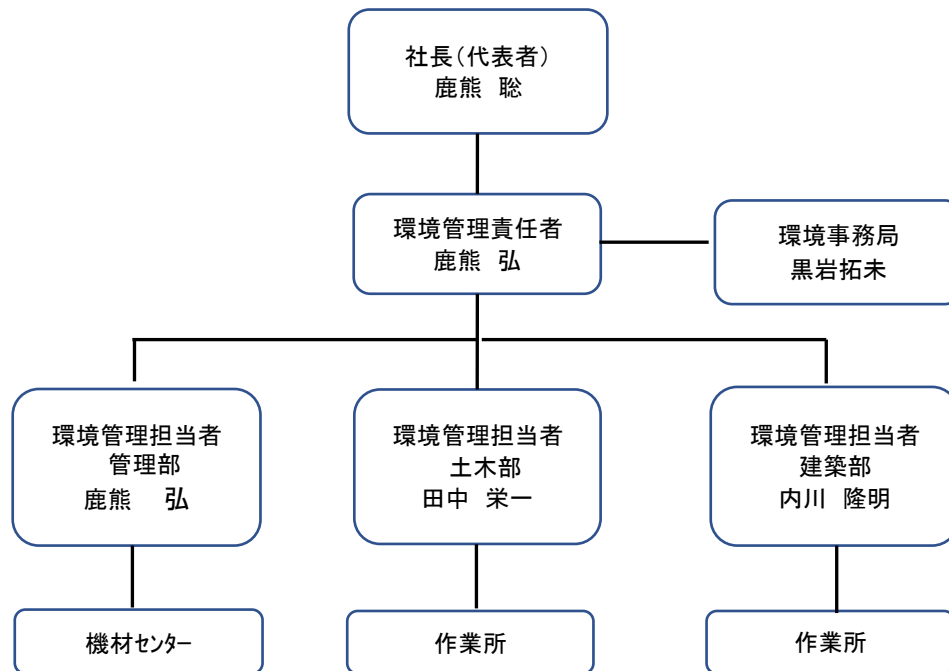
5) 事業規模

完成工事高

61期	3,017百万円	(2019年6月1日～2020年5月31日)
62期	4,055百万円	(2020年6月1日～2021年5月31日)
63期	1,743百万円	(2021年6月1日～2022年5月31日)
64期	6,191百万円	(2022年6月1日～2023年5月31日)

従業員数 86人
本社床面積 1132.1m²
機材センター床面積 5963.6m²

3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者・部門担当者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認 環境事務局の設立、担当者の任命
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの計画・実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動の内部コミュニケーションの実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境経営目標（中長期）

・ 中部電力㈱ 2019年度 二酸化炭素調整後排出係数 0.426kg-CO₂/kWhを使用

項目		単位	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2023.6～2024.5	2024.6～2025.5
			基準値(63期)	64期目標	65期目標	66期目標
二酸化炭素削減	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	568,285	562,602	559,761	551,350
		(%)	100%	99%	98.5%	98%
	電力	kWh	276,824	274,056	272,672	268,575
		kg-CO ₂	127,893	126,614	125,975	124,082
	ガソリン	ℓ	52,847	52,319	52,054	51,272
		kg-CO ₂	122,604	121,378	120,765	118,950
	軽油	ℓ	99,472	98,477	97,980	96,508
		kg-CO ₂	256,638	254,072	252,788	248,990
	灯油	ℓ	15,099	14,948	14,873	14,649
		kg-CO ₂	37,597	37,221	37,033	36,477
都市ガス	m ³	10,904	10,795	10,740	10,579	
	kg-CO ₂	23,553	23,317	23,200	22,851	
一般廃棄物	kg	7,390	7,316	7,279	7,170	
産業廃棄物	t	6,732	6,665	6,631	6,532	
水使用量	m ³	2,510	2,460	2,410	2,359	
事務用品のグリーン購入	購入品設定品目の維持		再生紙製品の部分使用を進める			
製品への環境配慮	環境配慮型建設資材、工法の提案・実施		提案実施50%以上			
地域環境貢献	会社・現場周辺の清掃		毎週1回以上			

項目	目標達成に向けての計画・施策	中期計画
二酸化炭素削減	CO ₂ 排出量	1.前年手段の継続・改善 2.前年検討事項の実施への取組 3.社員行動の不良部の改善 4.残業・休日出勤の削減 5.更なる向上のための手順改善 6.社内ルール遵守
	電力	1.前年手段の継続・改善 2.重点事項の推進(重点事項) ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進
	ガソリン	・関係会社の協力による適性機械の使用促進 ・作業手順の適性かによる過剰負荷の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮
	軽油	・省エネルギー型機器の導入の可能性の検討 ・新規改善策の検討
	灯油	
	都市ガス	
一般廃棄物	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (減量) 1. データベース化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量 (リサイクル促進)	1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進(重点) ・不良者の発見と指導 ・周知・徹底 ・整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料) ・保管書類の削減(保管基準、保管方法)
産業廃棄物	1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上 3. 本社廃棄物の重量測定～社内への通知・減量促進	(リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育
水使用量	(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育 (作業所・機材) 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進	1. 前年度の継続(作業所) 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進
事務用品のグリーン購入	1. 優先購入決定品の維持 2. グリーン購入品数の増加	1. 前年手段の継続・改善
製品への環境配慮	1. 設計、見積案件においての、環境配慮型材料・工法・設備の提案のための基準作成 2. 上記について提案の実施 3. 熱意を持った働きかけ	1. 前年手段の継続・改善
地域環境貢献	4. 官庁・民間工事(環境配慮)創意工夫・ボランティア活動等の実施	

5. 環境経営活動の取組結果と評価

1) 環境経営活動の取組結果

※排出係数62期～64期は0.426で計算

項目	区分	管理種別	単位	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2022.6～2023.5	対目標比率	活動評価と次年度の活動
				63期実績(昨年)	64期目標	64期実績		
電力の削減	本社・機材	使用量	kwh	78,731	78,337	80,728	103.1%	○昨年に比べ、作業所の使用量がかなり減っている。それに比べ、本社・機材については上がってしまった。本社・機材においてはもっとできる限りの取組をし、削減につなげていきたい。 ○来期、二酸化炭素排出係数0の再生エネルギープランへ変更を検討している。
		C02換算値	kg-CO2	33,539	33,372	34,390		
	作業所	使用量	kwh	201,058	200,053	137,125	68.5%	
		C02換算値	kg-CO2	85,651	85,222	58,415		
合計	C02換算値	kg-CO2	119,190	118,594	92,805	78.3%		

項目	区分	管理種別	単位	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2022.6～2023.5	対目標比率	活動評価と次年度の活動	
				63期実績(昨年)	64期目標	64期実績			
燃料の削減	ガソリン	本社・機材	使用量	リットル	48,264	48,023	64,697	134.7%	【ガソリン】 ○昨年に比べると、遠方現場が多かったため、ガソリン使用量は、増加している。 ○今後とも、エコドライブの励行・現場乗合により使用量減少を心掛ける。 【軽油】 ○下請企業との契約において、外注工事費（燃料込み）としているケースも多い為、燃料費軽油においては比較が非常に難しいのが現状である。 ○比較検討の方法について社内で模索していく。 【灯油】 ○昨年に比べ、灯油の使用量がかなり減っている。 ○例年に比べ、そこまで雪が降らなかったことが要因と考えており、このまま削減に繋がる方法を模索していきたい。
			C02換算値	kg-CO2	111,972	111,413	150,096		
		作業所	使用量	リットル	7,895	7,856	8,643	110.0%	
			C02換算値	kg-CO2	18,316	18,225	20,052		
	合計	C02換算値	kg-CO2	130,289	129,637	170,148	131.2%		
	軽油	本社・機材	使用量	リットル	789	785	240	30.6%	
			C02換算値	kg-CO2	2,036	2,025	619		
		作業所	使用量	リットル	71,923	71,563	75,695	105.8%	
			C02換算値	kg-CO2	185,561	184,634	195,292		
	合計	C02換算値	kg-CO2	187,597	186,659	195,911	105.0%		
	灯油	本社・機材	使用量	リットル	2,368	2,356	1,003	42.6%	
			C02換算値	kg-CO2	5,896	5,867	2,497		
作業所		使用量	リットル	19,639	19,540	15,139	77.5%		
		C02換算値	kg-CO2	48,900	48,655	37,695			
合計	C02換算値	kg-CO2	54,796	54,522	40,193	73.7%			
都市ガス	本社・機材	使用量	m3	11,094	11,039	11,299	102.4%		
		C02換算値	kg-CO2	24,740	24,616	24,406			

項目	区分	管理種別	単位	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2022.6～2023.5	対目標比率	活動評価と次年度の活動
				63期実績(昨年)	64期目標	64期実績		
CO2排出量の削減	本社・機材	C02換算値	kg-CO2	178,183	177,292	212,009	119.6%	○例年並みの削減率となった。 ○比較的作業所においては削減に成功しているが、本社・機材センターにおいてまだまだ削減の余地があると考えているので、対策をしていきたい。
		作業所	C02換算値	kg-CO2	338,428	336,736	311,454	
	合計	C02換算値	kg-CO2	516,612	514,029	523,463	101.8%	

項目	区分	管理種別	単位	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2022.6～2023.5	対目標比率	活動評価と次年度の活動	
				63期実績(昨年)	64期目標	64期実績			
水使用量の削減	水道・下水	本社・機材	使用量	m3	1,092	1,070	568	53.1%	○工事によって使用量の波が大きいため作業所の比較が非常に難しい。 ○本社においては、使用料は非常に多いため削減の方法が必要である。
			水道	作業所	使用量	m3	1,499		
	合計	使用量	m3	2,591	2,539	1,047	41.2%		

項目	区分	管理種別	単位	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2022.6～2023.5	対目標比率	活動評価と次年度の活動	
				63期実績(昨年)	64期目標	64期実績			
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	コピー用紙	使用量	kg	5,720	5,691	4,668	82.0%	○コピー用紙の使用量の削減に成功した。引き続き削減に力を入れていく。 ○産業廃棄物については工事内容によって波が大きくなるため、比較が非常に難しい。しかし、できる限りの削減をし、目標達成を目指していく。
			全体量	t	10,494	10,442	4,556	44%	
	産業廃棄物	再生不可率	%	4.83%	0.39%	4.83%	1238.5%		

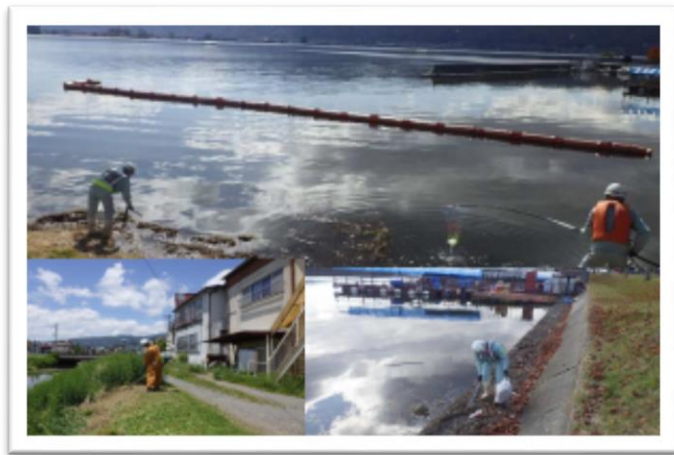
グリーン購入品について	環境配慮型建設材料、工法の提案・実施
環境に配慮した「紙」でできたファイルを社内全体で商品購入を検討している。文具等においては、環境対応商品を中心に今後も選定をしていく。	作業所において国土交通省の新技术NETISに登録のソーラーシステムハウスをレンタルする等、CO2削減・有毒排気ガス削減に向けた努力をしている。今後も、NETIS登録の機械活用等検討していく。 今期、循環式手洗器を使用している。



鹿熊組エコアクションへのその他取り組み



除雪作業の様子



現場周辺清掃の様子



社内での取り組み
分別の徹底



ソーラー発電を利用し
自然エネルギーの活用



地下水利用し
水の使用の抑制



環境配慮型発電機の使用により油
流出防止の実施

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2023年6月1日

1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等) ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニフェスト発行、管理 ・マニフェスト保管(5年間) ・産廃管理計画書・報告書の提出(毎年6月) ・車輛への表示 	遵守 違反なし
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出	遵守 違反なし
大気汚染防止法	建設機械に関する指針	建設帰化に関する技術指針に則り、排出ガス基準を遵守	遵守 違反なし
フロン排出抑制法	本社社屋ガスヒートポンプ解体工事(フロン抜き取り)	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易点検(3か月・1回以上) ・定期点検(3年以内・1回以上) ・処分書類確認 	遵守 違反なし
労働安全衛生法	石綿障害予防規則	石綿飛散防止対策マニュアルに則り、石渡ばく露防止の徹底	遵守 違反なし
じん肺法	粉塵障害予防規則	工事により発生する粉塵の抑制・拡散防止・保護具着装	遵守 違反なし
グリーン購入法	事務用品の購入	環境物品の調査、購入品目設定・調達	品目調査・設定・調達適切に実施
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	・規制適合車の使用	遵守 違反なし
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	・保管場所の基準の遵守、保守(保管施設、囲い、掲示板等)	遵守 違反なし

2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟・環境関連苦情等について、この10年発生していません。

7. 代表者の評価と見直し

当社が初めてエコアクション21への取組を開始する事を宣言したのが2011年であり、本認証を取得したのが2014年の2月でした。時がたつのは早いもので、環境負荷の低減、持続可能社会の実現への取り組みを開始して延べ12年認証取得からは9年が経過し、現在一つの節目となる10年目をスタートさせています。

認証の取得当初からなかなか社内への浸透が進まず苦戦はしていたのですが、現在に至っては各作業所にて環境負荷低減への取組が自然となされるまでになりました。

取組を進める中で、課題となっているのが、

- ・年々の工事受注内容の違いによる廃棄物等の減量について安定した数値とならず、比較検討が難しい点。
- ・工事車両、通勤車両に使用する燃料の使用量について、作業所の場所による移動距離の問題が安定しない点
- ・電力の再生エネルギー活用について、現在の使用電力コストとの比較が現段階では難しい点

上記3点は建設業特有である受注した工事の内容や世情の影響を受けやすい点でもあり、今後も続く課題となるかと思われます。

しかしながら、企業努力や個々人の工夫により若干でも効果を見込める物もあります。

当社では通勤車両として70台以上の車両があり、従来型のガソリン車が主となっておりますが、地道にハイブリッド車への車両入替や旧車を排して新車への入替を進めるなど、化石燃料の無駄な使用を避けるべく入替を進めております。2022年5月末から4台が入替となりました。また、2023年中にも追加で4台のハイブリッド車への入替を進める予定です。通常ガソリンエンジン車に比べ月平均1台当たり20L～30L前後の使用量の減量が可能となります。保有しているダンプトラックや除雪車両についても入替を進めている為効率的な燃料の使用による減量も併せて期待が持てる事、エコドライブも意識に行動に身についてき始めている中で、更に減量を進めることが可能となるのではと考えています。

また、現在は検討中ではありますが、社屋等の固定建物に使用する電力の再生エネルギー契約への変更、太陽光を活用した発電等により、社屋の電力使用量を実質的な二酸化炭素排出量0へ向けての取組を進めることで、作業所を含めた電力使用による二酸化炭素排出量の5割から6割の削減が可能となります。近年、作業所においてもソーラー式の保安用品、休憩所等設備のラインナップが充実してきつつあり、それらを活用する事により、10年前に比べ電力の使用量は大きく削減に向けて変化しています。

エコアクション21を続けていく中で、始める事、知る事、行動する事は手間がかかるかもしれませんが、継続し続けることにより、大雨や巨大な台風など激しい変化を見せつつある環境の変化ににわずかでも配慮することができます。

未来の持続可能社会を実現していくために、我々は今後も工夫を重ねてまいります。

令和5年6月1日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聡